

# 品川区立後地小学校（2年目）

【校長】 西川 幸延  
【児童数】 377人  
【学級数】 14学級



次の取組へ

## 【課題・改善】

「体育の授業で自分の課題が解決できたことを実感する児童」の割合が88.3%であった。多くの児童が課題解決や成長の実感を得ることがはできているが、目標値には達しなかった。単元の進め方や個別最適な学びを実現するための手だてについて改善を図る必要がある。  
⇒ICT 機器等を活用して、児童が自分に合った課題を選択したり、課題解決に向けたゴールの設定をしたりすることができるような手だてを研究していく。

## 【1年目における実態・課題】

・運動を楽しむことはできているが、運動を通して課題を解決したり、自分の成長を実感したりしている児童が少ない。  
⇒主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を通して、児童が自分の成長を実感できるようにする。  
・健康に対する課題に対して、具体的な対処方法を理解したり実践したりしている児童が少ない。  
⇒健康教育を通して、具体的な対処方法を学び、実践に結びつけられるようにする。

## 目標

- ・体育の授業が楽しいと思う児童（90%以上）
- ・運動やスポーツが大切だと思う児童（90%以上）
- ・体育の授業で自分の課題が解決できたことを実感する児童（90%以上）
- ・健康の課題に対して具体的な対策を実践している児童（90%以上）

## 【成果】

- 体育の授業が楽しいと思う児童の割合が 95.7%に達した。
- 運動やスポーツが大切だと思う児童の割合が 95.7%に達した。
- 健康の課題に対して具体的な対策を実施している児童の割合が 92.2%に達した。
- 令和5年度の体力調査において、東京都と比較した反復横跳びのTスコアが平均1.7ポイント上昇し、全学年男女共に50以上を記録した。（体育健康教育を推進した結果として）

## 【取組】

- 個別最適な学びを実現する授業の実践（体育科）
  - ・実技研修会と年6回の校内研究を通して、体育科の授業改善を図る。
  - ・保健領域では、児童が健康に対する課題を自分事として捉えられるような学習過程の工夫をすることで、学習の必然性をもたせる。
- 多様な運動機会の創出
  - ・体育的活動（キラスポ）を設定し、児童が運動に親しめる時間を確保する。
  - ・放課後遊び事業を実施し、運動の時間を確保する。また、年間指導計画と関連付け、運動を実施する。
- 教科横断的な健康教育の実践
  - ・市民科一貫プランを設定し、多様性に対する教育など、外部人材を活用した健康教育を実践する。

## 【取組（詳細）】

### ○ 個別最適な学びを実現する授業の実践（体育科）

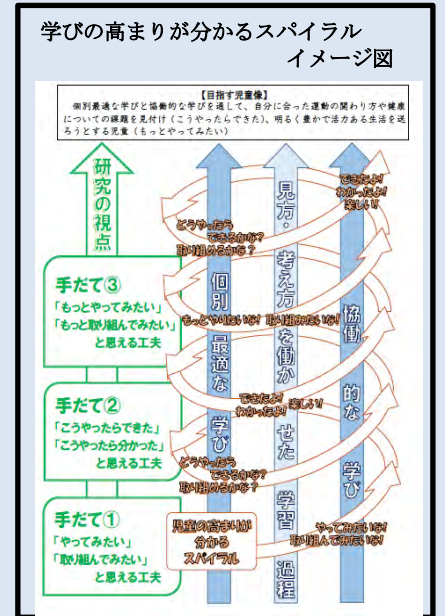
・習得、活用、探求の流れを、「やってみたい（取り組んでみたい）・こうやったらできた（こうやったら分かった）・もっとやってみたい（もっと取り組んでみたい）」として単元に位置付け、児童の学びの高まりが分かるスパイラルを意識して授業改善を行った。



動画を見ながらアドバイスを送り合っている様子。



学習環境の整備の例



### ○ 多様な運動機会の創出

・体育的活動（キラスポ）では、昼休み後に校庭と体育館を使用して運動遊びに親しむことができる時間を設定した。  
・2年目からは、児童にプレイリーダーを任せる場面を増やしたり、ルールや遊びの工夫を児童が話し合っ決めてたりするなど、児童が主体的に運動に取り組むことができるようにした。  
・東京学芸大学と連携し、週に1回、放課後遊び事業（あそびバ！ラボ）を実施した。大学生にコーディネーターとして入ってもらい、教員に負担のかからない形で持続できるような体制を整えた。また、体育の内容と関連付けたり、児童が自分で運動を選んで取り組んだりすることができるような環境を整備した。



キラスポとあそびバ！ラボの様子

### ○ 教科横断的な健康教育の実践

・品川区独自の教科である市民科の中で、学校独自の内容を行う、「市民科一貫プラン（いきいきタイム）」の時間に健康教育を位置付けた。従来の市民科や生活科、体育科の保健領域と関連させながら健康教育の推進を行った。  
・外部人材や栄養士等を積極的に活用し、専門的な知見も交えながら学びを深めていくことができるようにした。



栄養士が食事を通して健康についての指導を行っている様子。